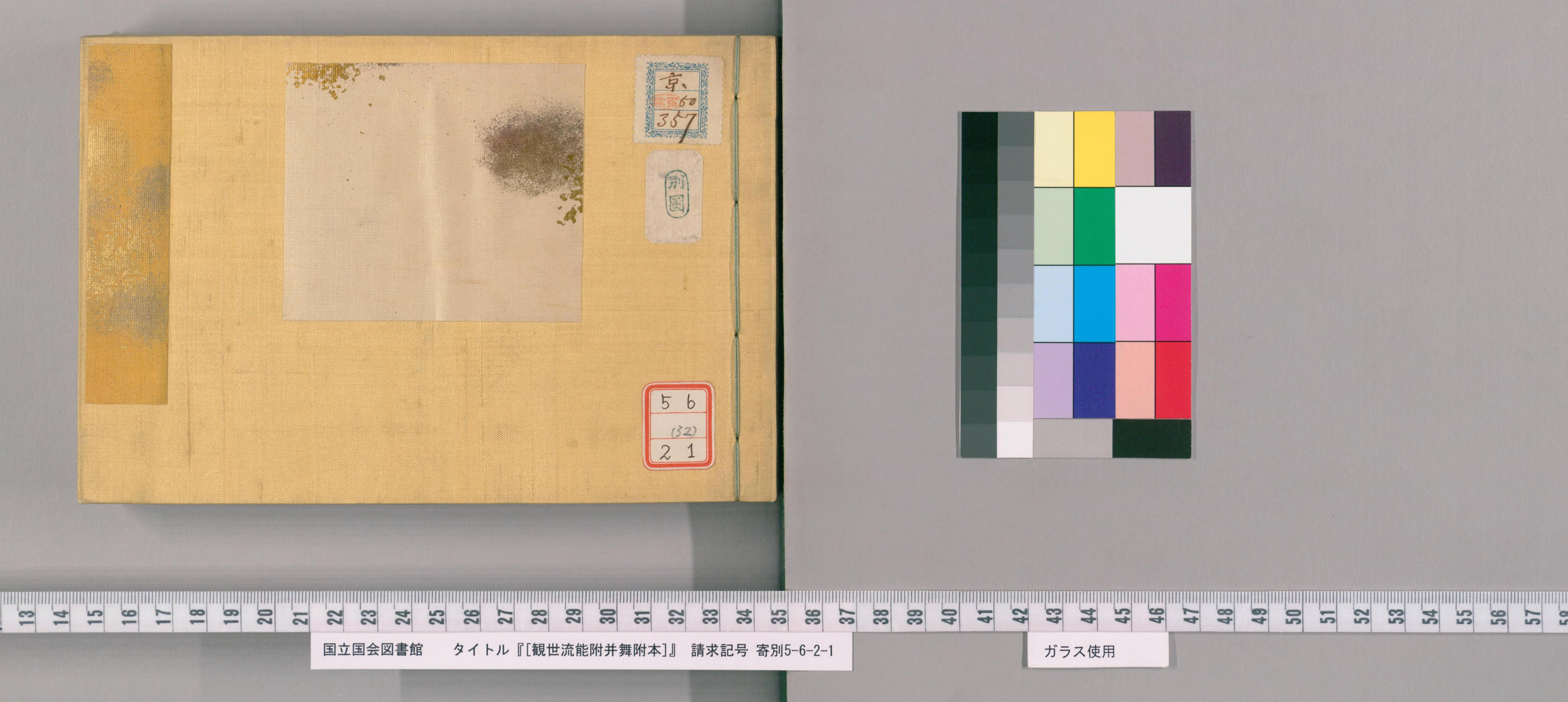
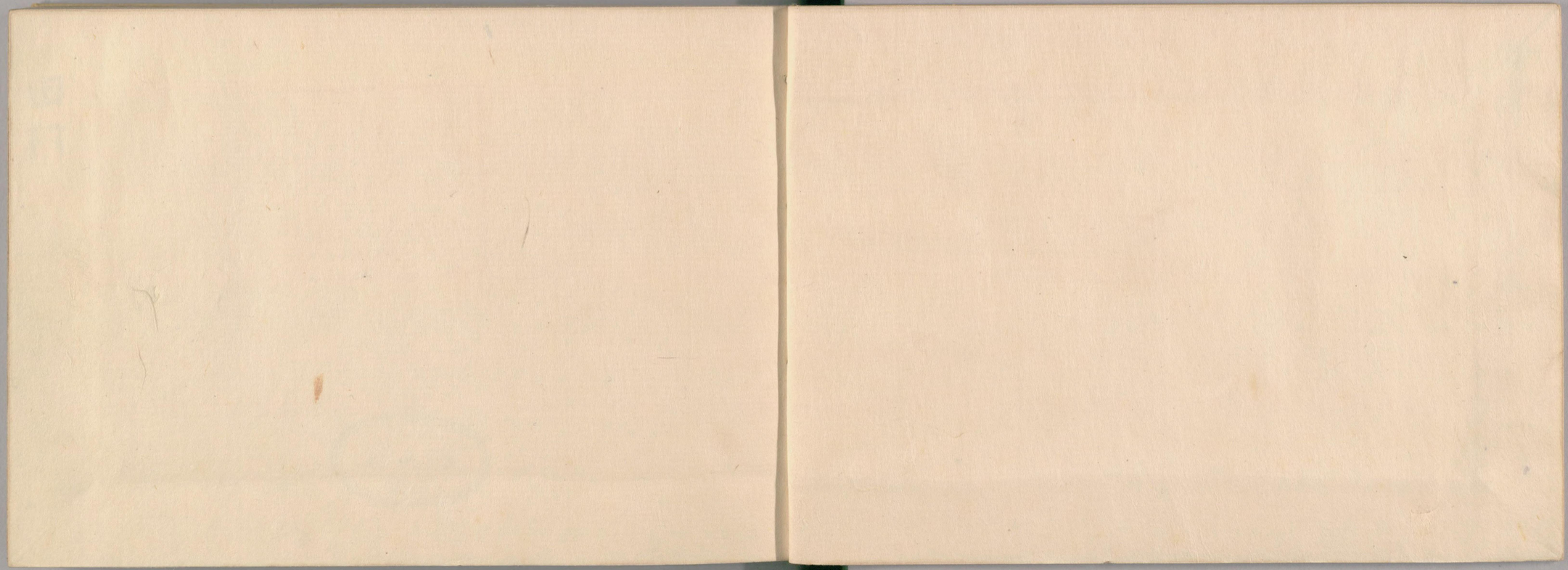
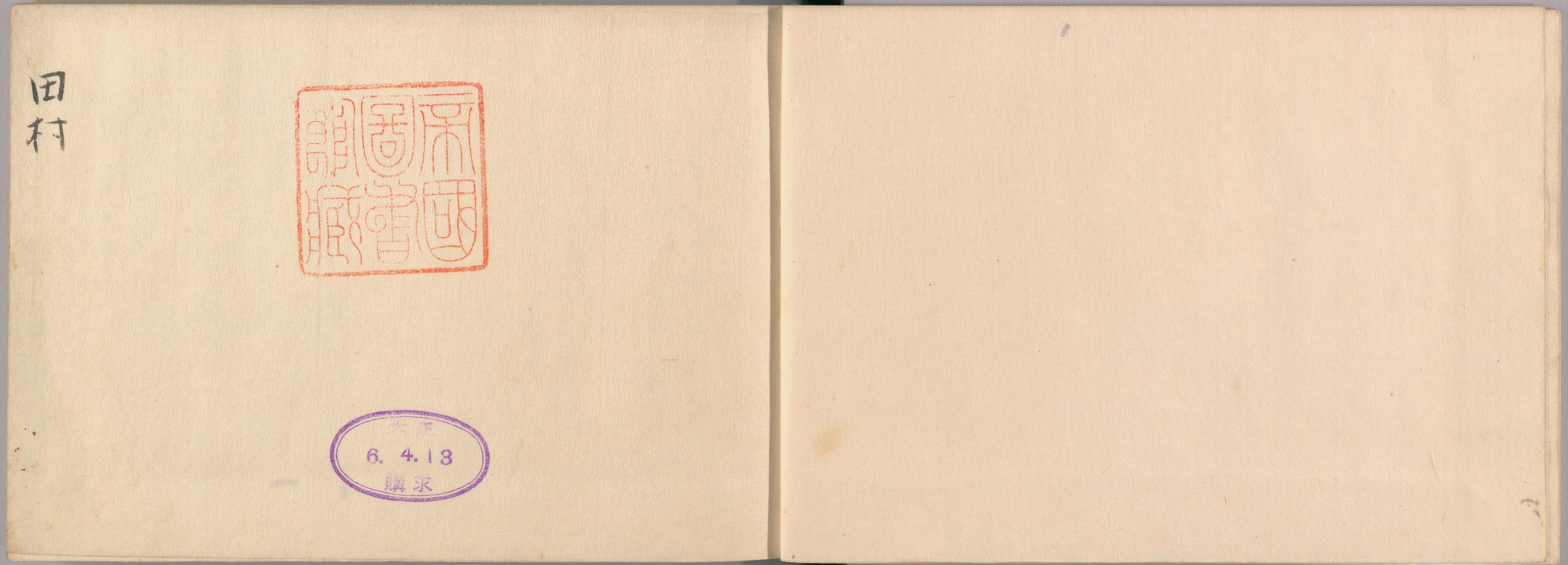

京、
60
357
別圖
5 6
(32)
2 1
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

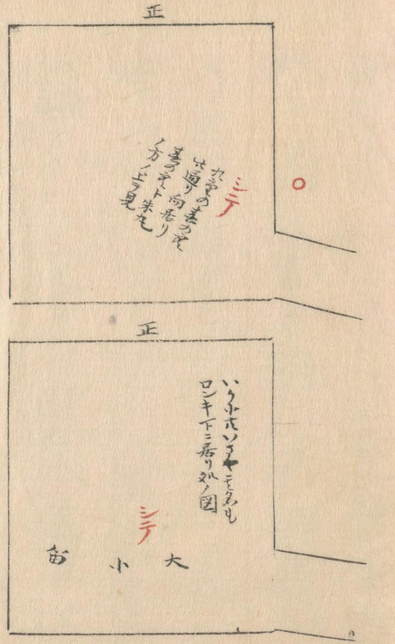
田村

朱ハ本附
藍ト紫ハ替業

装束之覚

初シテ　面 燕童　襟 赤白　着付 縫箔　シケ水衣 浅黄類
腰帯 縫入　黒頭　鉢巻　扇子
萩帯

後シテ　面 平太 夕力　襟 花色 白　着付 厚板唐織　半切
法被 カタスキ　腰帯 紋付　太刀　扇子
梨子ヂ烏帽子　白鉢巻　腰桶



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

士といへり汝ハ一人の檀那をまちて
大伽藍を建立すへしとて東を
さしてとひ去給へハ行叡居士（正）（ト ワキへ）
ニハ是観音薩埵の御再誕又（ワキへ二足ツメ）
檀那とまそこに有し坂の上
の田むら丸　上三句（正）今も絶せぬ流（右ウケ）
れる清水の深き誓もあらく（正へ直ニ足トメヲル）
まくの手れほのうわく梓されし誓（先へ出）
普く国土萬民をめくミ（ヒラキ）
大悲乃影そ有難さや安（ヒラキ　左へ廻リ　ワキへ向）
楽世界より今此娑婆ニ示現し（シテ柱先ニテワキへヒラキ　又ヒラ）
て我らか為乃観世音仰くも愚
哉〳〵　ワキ（正）面白き春（カズワキへ向キテモヨシ　返ニ正ク（ツ）ロキ着　ステ扇　ヌキ持）

気あるひてしほの見渡さるゝ
ハ皆名所にて候へく候御教候へ
シテ（ワキへ）去仰名所にて候程に御為に教
へ申候　ワキ　先南に当て塔婆の見え（南方ヲ見）
て候ハいかなる所にて候そ
シテ　あれこそ歌の中山清閑寺今
熊野まても見えて候　ワキ　まつ北に当（北ヲ見）
て入逢の声の聞え候ハいかなる
御寺にて候そ　シテ　あれこそ上方念
鷲の尾の寺にて候やあら面白や〳〵音羽の（正へ直ニナカラ東ノ方ヲ見ル）
山の嶺よりも出る月の如く
やうやく此地主の桜にうつる気（正）
色見えて花も盛り待たまれ（ワキへ）（ワキへ二足ツメ）

9—452.8
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

初シテ委附

●あまハ上ニ又鷲の尾の寺や雨落りへ多羽の山の嶺よりも出る月のかゝやきこそ●風も宗なる多羽の滝の白糸の

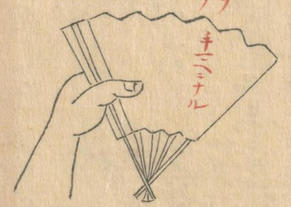
後シテ委附

●是ハ則大慈大悲の觀音擁護の結縁なり

（正ハ直シテカラ東ノ下タヲ見ル是ハ月ノ影ノウツリタルヲ見ルナリ）（東ノ上ヲ見ル左右ノ方東ナレハ少額ヲヒネリテ東ヲ見ル）

（左右）

（左）（右）（左）（ヒラキ）



（キニヘノ方ヲツムリ（カツ）ク）（キニヘニナル）

乱まこ落まハ

（ク様ニシテカブル）

替業

●掾ハ此ちゝ蔓くゝ國土業民のもとさしの

（又先ハ出テ）（先ニテ下タニシリ望下タニヲキ）

大悲の新を有るこき実や安東世界より

（正ハ合掌シテ）（ホウキ持チ立ル（クツロキ））

二 田村

第一 鄙乃郡路隔て来ぐ〳〵九

重の春に急なむ

（半付）

見ハ東國

方より出る僧にてハ我東郡

と見んとて行ハ此ハ喜思ひ立てハ

（左）（ウ）（ヤ）

比もたれや弥生半乃喜の寒ぐ

（ウ）

歌も長閑みめくる月の庭む

ま方や多羽山瀧の響も静

成清水寺に着にけり〳〵

（一セイニテ出シテ柱ノ内ニテヒラキナク正向ニ訴出ス右ニ帯モチ扇ニ剪サス）

（一セイシテ）

とのほかゝ喜の手向と聞ハ

（ヒクル）

地主檀現乃花盛

（左ニ下ノ下ヘ）（サシ）

史花の名

不おかしやいへ世ハ大悲乃出ふ

そふ故ハ此寺の地主なる様に

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

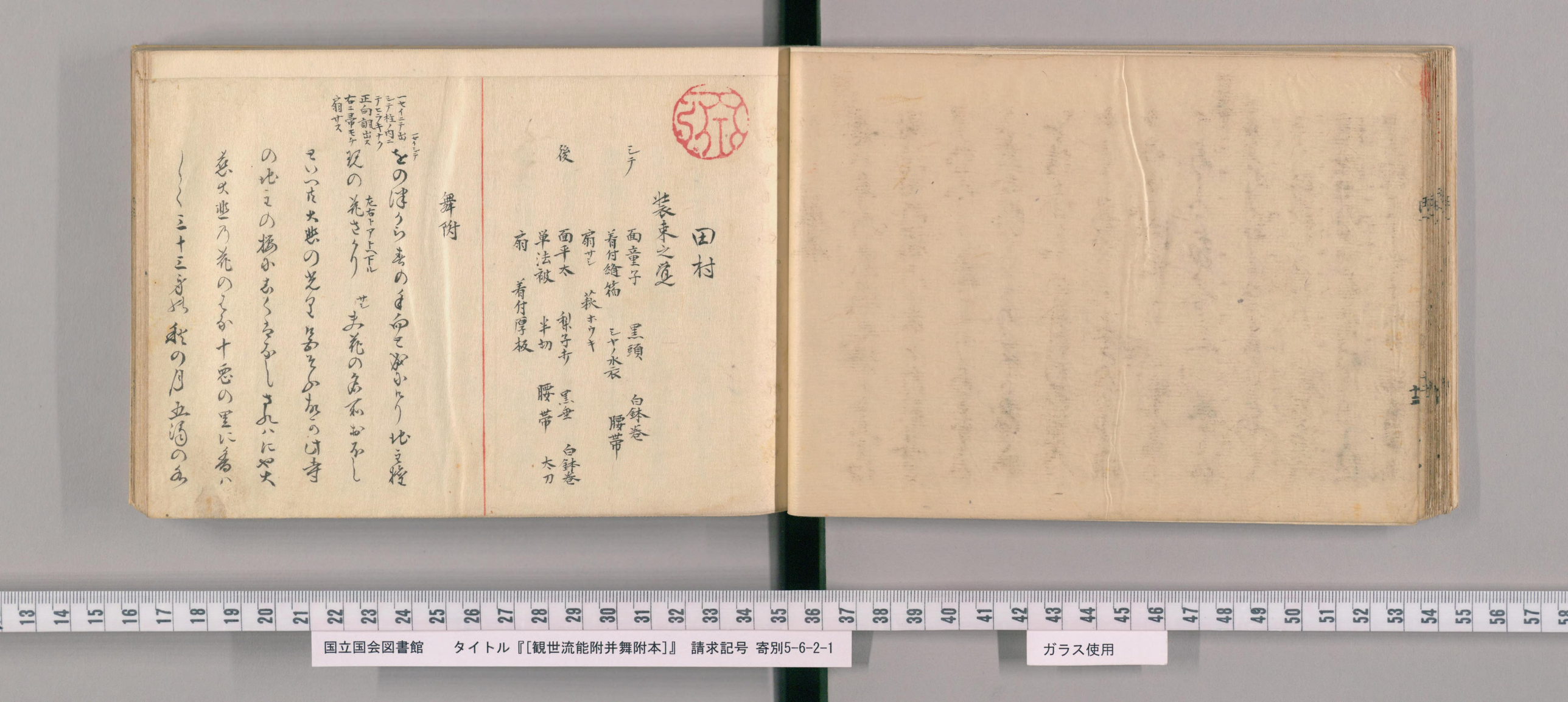
ガラス使用

士といへ申に汝一人の檀那とまちり
大伽藍と建立すべしとて東を
さしてとひ去怒されハ行叡居士
いつハ是観音薩埵乃御再誕又
檀那とまそこ有しハ先坂乃上
の[illegible]丸 今も[illegible]流
[illegible]清水の[illegible]深き[illegible]
[illegible]手の[illegible]の[illegible]捨て[illegible]
普く[illegible]國土萬民[illegible]
大悲乃影そ有難き[illegible]や安
樂世界より今此娑婆に示現し
て我[illegible]為乃観世音[illegible]も愚
成[illegible]やく[illegible]

[illegible]
ハ皆名所[illegible]教[illegible]
[illegible]作名所[illegible]御[illegible]教
[illegible] 先南に当て塔婆の
[illegible]
[illegible]
熊野[illegible]
当[illegible]入[illegible]
御寺[illegible]
[illegible]
山の嶺[illegible]
やさ[illegible]
[illegible]

當寺者佛力なりけり
君乃宣旨にハ勢州鈴鹿乃
悪魔と志河の都鄙安全に
すへしとの行にまつて軍兵と調へ
院に越く時節にまゐりて觀音
の佛前に来りて初念とし立
願せしに
ふしき乃瑞治あらさ
あるにハ歡喜微咲乃れとなく
むくに慈凶徒にお立々わり善
天乃下率土の中に津々浦
あらさるや頼く名にしおふ開乃
ゆかしく相坂の山をこゆるハ浦
波乃栗津の森やあるをみふ乃

石山寺とふしおかに見も清
水乃一佛と頼ハあひにをこ路
や勢田乃長橋踏鳴し狗も足
あるや勇むらん
院に伊勢路
乃山をくらう馬の道も先やきん
ゆかつ父見をそらる梅かえの
花も初紫も色めきて猛き
心ハあらはれ乃土も木も我大君
乃神國にもとより觀音の法
誓ひ佛力こゝひ神力も我我
にまもりおかぎつゆへ生ってさ
とさの鈴鹿乃みかきをし世と
まくも思へハ佳例なるべし



田村

装束之道

シテ

面童子　黒頭　白鉢巻
着付縫箔　シヤノ水衣　腰帯
扇サシ　萩ホウキ

後

面平太　梨子歩　黒垂　白鉢巻
単法被　半切　腰帯　太刀
扇　着付厚板

舞附

一セイニテ出
シテ柱ノ内ニ
テヒラキナク
正向調出ス
右ニ帚モチ
扇サス

一セイシテ
をの津から春の手向て此かたり　此之程
左右トアトヘ下ル
現の花さかり　サシ　夫花の名所おほし
そいへ共大悲の光を　為そのあたの山寺
の此之の梅にあくるなし　されハにや大
悲大悲乃花のとか十悪の里に香ハ
しくく三十三年始　秋の月　五湯の春

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

観音薩埵の御再誕（ワキヘ）ふたゝびこの世に
昔しハ荒坂乃上の田むら丸（ワキヘ二足ツメル）（手ヲ正）今
もとも名に流るゝ清水乃
深き誓ひも数々に（右ウケ）千手の御手ノ
り〳〵（正ヘ直シ）救世の誓ひ普くて（正ヘ出）国土を
民をもらさぬ大悲の（ヒラキ）影ぞ有難き
（左廻り）げにや安楽世界より今此娑婆
に示現して我らが為の観世音
（シテ柱ノキハニテワキヘヒラキ）仰ぐもおろかなるべしや（返シニクツロギ扇ヌキモチ正）
（ワキ）近比面白き人に参りあひて候ものかな
見へつる所ハ皆名所にてぞ候らん
御教へ候へ（シテ）（ワキヘ）さん候皆名所にて候
御尋ね候へおしへ申べし（ワキ）（南ヘ向）まづ南
に当て塔婆の見へて候ハいかなる
所にて候ぞ（シテ）あれこそ中山
清閑寺今熊野まで見えて候へ
（ワキ）（北ヘ向）また北に当りて入相のきこへ候ハいかなる
御寺にて候ぞ（シテ）あれこそ上見ぬ鷲の
尾の寺や（東ヘ向）御覧候へ音羽の山の嶺
よりも出る月のかゝやきて（正）地主
の桜にうつる景色まづ〳〵（ワキヘ）光そ
御覧し事なれ（ワキ）（正）げに〳〵是こそまさしく
おもしろけれ心おきなき一時（シテ）（ワキヘ）実
惜むべし（ワキ）おしむべしや（二人）春宵
一刻価千金花に清香月に陰
（トミテ）（正）春の千金もかへまじ今宵の時にや（ツカノトワキノソバヘ行ワキノ右ノ袖左ニテトリ二三足ホト正ヘ出）

坂の上乃田村堂の軒もるや月
乃むら戸を押あけて内陣に入らせ
給ひけり内陣に入らせ給ひけり
夜もすがら散るや桜乃陰に寝て
花も妙なる法の場迷はぬ月
の夜と共に此御経を読誦する
しく
あらありがたの御経
やな清水の滝津波まで法
の流れを汲んで他生の縁ある旅
人に言葉をかはす夜声の読
誦の声をきけば大慈大悲の観
音擁護の結縁たり
やな花の光りふりそひて男体の

人の見えさせ給ふは如何なる人にてましますそ
今は何をか包むへき人王五十一代
平城天皇の御宇かとよ坂の上
の田村丸東夷を平らげ悪魔
をしずめ天下泰平の忠勤たり
是も則当寺の仏力なり
然るにまた君の宣旨には勢州
鈴鹿の悪魔を鎮め都鄙
安全になすへしとの御宣旨なれは
軍兵を調へ既に赴く
りて観音の仏前に参り祈
念をなし立願せし所に不思
乃瑞相あらたなりと頼もしや

[illegible]

の数をあらむていきき山徒ゆあ
立ちり 名 正 普天の下率土の中い
はく王地にあらざるや 数て 為ま
あふ関の戸さて お坂の山をこゆれ
ハ 湖海の 西東津の 右ヘ向 あやのをろふ 右ノ正ヲシカト見 右ノ
方ヲ拝ミ 石山ちをみしおかミ 手下ゲ 右ノ正ヲシカト見ル 是も清水の
一佛ニ 正ヘ直ス 数るあひに近江路や 勢田 サシ廻シ右ウケ
ツシ正ヘ直シ 乃長橋 ゆゑあらし 右ノ腰引 負ハ計 正ヲ見 是なるや
勇むらん 上ニ 正ヘ向 まてる 伊せ路の山
ちりく 日 立 子 の道も先ゆきんかく
右ウケ 正ヘ直シ 多ゑきる 梅のえ 正ヘ出 花も紅
紫もいろのまて 極き心を あらう ヒラキ
乃 正ヘ入リ込ヒラキ 土も 本も 我 君の神 玉 ヲ

角ヘ行 左ノ袖カヘシ 角取 左廻リ
見ヒより 観音の 乃 ひ 佛力ヒ
ワキ坐ヨリシテ柱ノ方ヘツカノト行
いひ神力も 有不 ゆ 小廻メ正ヘヒラキ
らかのまつ ゑ ゑ ゑ さを 右ヘ 乃
右ヘ入リ 左ノ袖カヘシ左右ヘ歩込 ヒラキ
終 庵 の みそ きをし 世 まても 思へ
ハ 佳例 なるへし 上地 正ヘ出 去程に 山海
ヒラキ 上ヲ見 ヒラキ
とうこうを 名神の 竜 ゑ に ひらき
下ヲ見 サシ右ヘ廻リ 太鼓坐ニテ小廻リ 正ヘヒラキ
地 ゆ 海て 岩本 ゑ 動 揺 ゑ 翔リ経 正高様
翔ノ跡小廻ノ目付柱ヘシテ 向キヒラキ
いかに 君神も 時に 当もする
ゑ あしあると 千方ゑ いひし 逆海に
住へし 鬼も 王位を ゑむく 天罰にて
ちかゑを 終ハ 忽 ゑひうせしを 左ヲ
出引 ムケ子サシヒラキ
このし まして 山ちりき 終 庵 山
上地 ゑりまけ これハ 伊勢 大左右サシ廻右ヘ廻リ

（目付柱ノ方ヘヒラキ上ヲ見）（扇ヒロゲ出）（雲ノ扇ヒラキ）（皃計正ヲ見ル）（身ヲ直ス）（トヒテ）
あのゝ松原村立来つて鬼神は
黒雲鉄火をふらしつゝ数千騎に
身を変じて山のごとくに見えたる
所にあれを見よ不思議やな

（出ヒラキ）（サシ右ヘ廻ル）
く　味方の軍兵の旗の上に

（目付柱ノ方ヘヒラキ）
千手観音の光を放つて虚空に

（角ヘ行扇左ヘトリワキ坐ヘ行）
飛行し千の御手毎に大悲の弓

（ワキ坐ヨリ太コ坐ヘ行）（左ヘカヘリ扇正ヘ）
には智慧の矢をはめて一度

（ナゲ正先ヘツカヘト出）（右ノ方上ヨリ正上ヲ見廻シ）
放せば千の矢さき雨霰と

（下ヲ見アト上ヘタヽラノヽトトリ）（右ヘ飛カヘリ下ニ居扇カブリ）
ふりかゝつて鬼神の上にみだ

（扇右ヘトリ立右ノ方ヘ出）（行カヽリ左ヲ引）
れ落ちればことごとく矢先にかゝ

（ムナサシ）
つて鬼神は残らず討たれにけ

（正ヘ直シテヲ合）（角ヘ行）
りありがたしありがたしや誠に呪咀

（角トリワキ座ノ方ヘ行）
諸毒薬念彼観音の力を

（ワキ坐ヨリミテ柱ノ方ヘサシテ行）
あはせてもとの人に還着於

（太コ坐ニテ小廻り）（正ヘヒラキ）
本人の還着於本人の敵は

（左ノ袖カヘシ）（ワキ正面向）（拍子二ツトメ）
滅びにけり是観音の仏力

なりけり

仕舞

・上ヨリ前能附ノ通リ
・たくるのめ　上ノ翁　・ワれさの中　大左右　・みより
もさまや　ヰ込ヒラキ　・赤みもれる　角ヘ行
・花桜木　左廻リ　・いつく　サシ角ニテ小廻リ
・ともも花　角ニテ扇カザシ　・ゐまり　左廻リ　・面
白は　左右トメ
・（左右ヰ込テモヨシ左右ナシニ下ニ居テモヨシ）
面白のまつや行く面白のまつや

八島

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

八嶋

裝束之覺

出シテ　面朝倉尉　尉髪　着附鬘半目厚板之内シテ水衣カタビラ　腰帯　扇　釣竿

後シテ　面平太　梨子打　黒タレ　白鉢巻　着付唐織法被　半切　腰帯　太刀　扇　床机

連　直面　放シ髪　ヨリ水衣　髪半目　腰帯　扇　釣竿

シテ連

●釣竿ヲカタゲテ扇右ノ手ニシロヘサシ仕手ノ先ヘ立ツ一声ニテ出ル松ニテ足トメ正向居●吃逆ノト向合●月乃出シ行ト正向●里近ト向合話スニ及ヘカヘリ来ル幕ヘ入リ中ヘ行正向居●月ヲ見ル指ト向合●先ヘ論有ル事ノ候ヘ共ト云ヘハ仕手ヨコニテ渡シ彼トウメヒテト入カハリシテ柱ノキハニテ後見ヘ竿ヨコニテ渡シ扇ヲ持充ヘトリシテノ右ノアトノ方ニ下居●苦内ト佛ト立少シ正ヘ出ワキヘ向誰ぶくト誰ぞ由ヲ申ヘト立ワキヘ向下ニ居いふ内ト訴ルカ内ヲ申ヘト立ワキヘ向ヲ名ヲ名ヲトヨツハト語ルカ内ヲ申ヘト立ワキヘ向下ニ居ル名ノ内ト語シテヘ向下ニ居ル名ノ内ト語●ヲヽラヽト笑ルモワキヘ●笑いふいふ内ヤヽ打ニ正●ヲヽラヽみ浦ハ名ノ打ニ立充ヘトリ笛ノ上ニ下ニ居●降ノ歌トワキヘ源氏乃名ヲモト正ヘ直●夢ヲヽし夢ト返シノ時ハヲヽ辺ヨリ立ニ足直ニ出ヌヨリ入ル

ツレ男桴右ニカタゲ扇腰ヨリシテ先ニ立出揃カヽリ一松ニテ足トメ正面ヘ向キ居ル

シテ扇腰ヨリシテ一ノ松ニ出釣桴右ヨリタヽシテ出ハシヘリシテ正面ヘキヽむしろやト語フ

舞附

おりふしや月海上ふうくんあい海静やくふ舟うそ漁舟ヲ漁西浄ふうくん

ツレト向合

雪ぞ　ハヽ　あら住き浦の秋うんと建行

秋くもれかもあしの葉ふく風の音

のくるももる物すごさよ　一セイ　ハヽ

正面ヘムク

月の出潮

乃あけ方波ハヽ

シテ桴キワニテ正ニ体ヨリ語出ス

かくのおもしろや

ツレト向合

ハヽ　シテ

月もれくしく里近し　シテヲシ一ノ松

笛乃　ハヽ　秋もふけ行ハヽ

ツレト向合

月ハヽ

ハヽ　ハヽ　ハヽ　ハヽ　ハヽ

里ヒートト語桴右ノ方ヲロシ鳥渡見左ノ手鳥渡フト右ノ手ニテ桴ノ中程持直シツヽヲ打乗量ヘ入

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテ舞附

●揮右ニカメゲ扇コシニサシ一セイ不越シテニノ松ニテ留正面
面ゑやト謡●ゐつきソレ〳〵●月の光ハ正●星ちり
ソレ〳〵●星を〳〵謡キリ揮ヨロシ右ニサゲ持内〳〵入リシテ柱サキ
ニテトメ〳〵茶ハ第星ト謡●月の光ハソレ〳〵

シテ羽 先〳〵ゑ(謡ヲヲサホヌヲ中〳〵行底孔ニヤル)ほを待ふるる〳〵

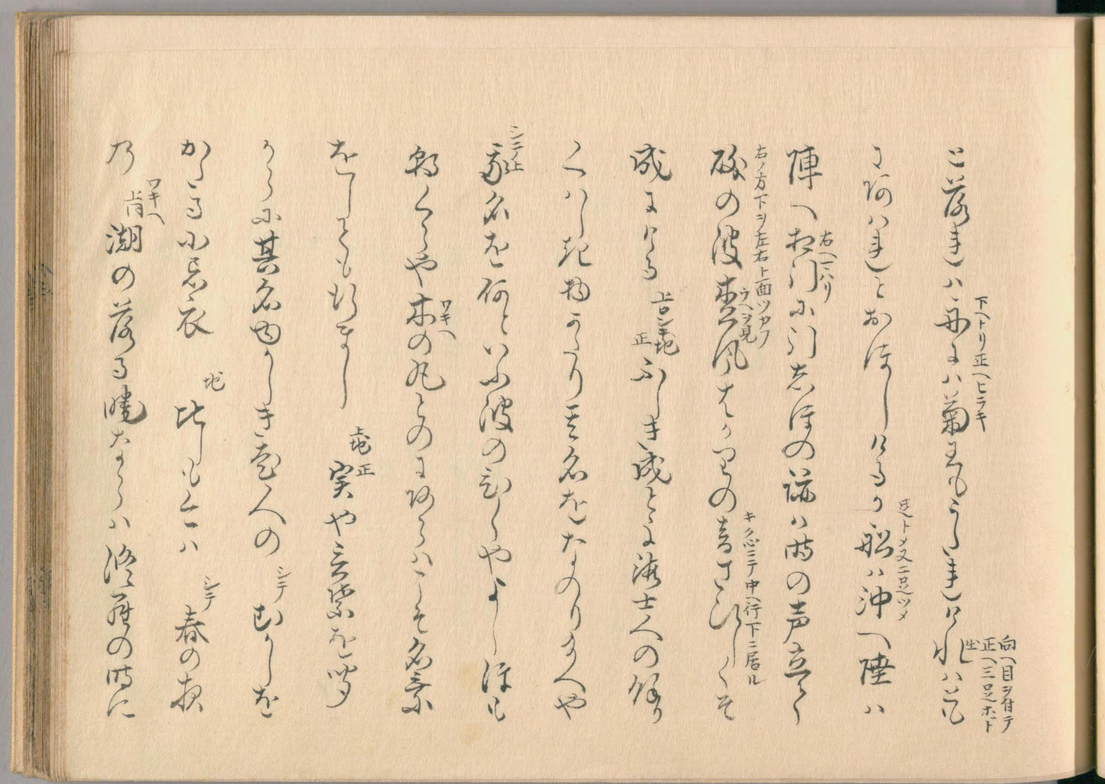
波やのゐる〳〵の海つ〳〵いそち越岸を
〳〵やとそいいふ色なる垣毛の内
〳〵業内ゃ(ソレ羽)誰まて海つ〳〵ろ(ワキ)波ゑ
一見の後み〳〵〳〵一本の岸を叩う〳〵ゅ〳〵
(ソレ)誉ゐ待ゅ〳〵ゐつ〳〵に毛由ゃ〳〵〳〵いた
申ゅ波ゑ一見ゐ後の一本ゐ岸ゑ後
(シテ)安(ソレ)まほ〳〵のゐるなれゑ見後ふ兄茅衰
ゅほ〳〵ふお岸ゅ叶ふ〳〵き北ゃ(正)ゅ(ソレ)裏
〳〵ゅゐ岸のつをこゃて〳〵ゅ〳〵ゐりに兄

くる〳〵ゅ袖ふ叶ま〳〵き(ワキ)う後ゅ(ワキ)ゃ
く〳〵兄茅衰ゅく〳〵ろ〳〵に〳〵ゅこと
都方のゐの〳〵北浦を一見〳〵一兄
乃つゐふ〳〵ゅが日のゐる〳〵ゅ〳〵ゅ茅に衰
こゑ〳〵ゐ申ゅ〳〵(ソレ)分角申ゅ兄こ(正)のす
ゃ〳〵ゅ〳〵ゅ旅人ゅ都のく〳〵ゐ入ゅう日の
ク礼〳〵ゅ〳〵ゅ茅に一本と〳〵〳〵後ゅ
(シテ)何旅(ソレ向)人ゅ都のゐ〳〵申う(ソレ)さんゅ(シテ)実(ワキ向下リ)
痛ゅ〳〵きゐるつふさ〳〵ゅ(ワキ向)お岸を叩
ゃさんゅ(ソレん)おゐり梅も叶ゅのゃ乃(シテ羽)只
茅枕とお(ワ正)ゐ〳〵めセ(ソレ)ゑゐもゐゅゅ岸
ゑ也す(シテ上)昼つ礼果ぬ雲乃薮乃

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

上シテ おほろ月あそ志くものもたまきのまの
笞 上目 八角に出てくる高松乃苔の莚ハ
（正三足手出）（左ヘ右ノ足カケワキヲトクト見テ）
いくいしや 上ニ同 さて慰ハうつの名乃く
下ニ居 むまゐる田露を御覧せよなとゝ雲井
に陽らさらん 旅人乃古里も都とまけハ
（ワキヘ）
なつかしや 家にも有ハとく 風ゝ浪
（左ヘ引立）（老人ヘシウセウラシク シヲリ上カラ）
にむせひけり 正 ワキ同 ぬるに中ハ何と
（訛拭ルヲキ手下ル）
やらん 似合ぬ石屋まゝらへ見いすへ
此事ハ源平の合戦のちまと家くハ
通取語つゝ此事せハへ シテ同 安き間乃
（ワキヘ）
すゝつゝ事せよハへ いくさ此ハ
（立正床机ニカヽル）
元暦元年三月十八日のすなるしに

平家ハ海のおもてゝ一町斗に船をうかへ
源氏ハ此汀まうち出すに大将軍の出立
にハ赤地のすしきの直垂に黒ぎそこ乃
出着せなり鏡ふんゞり鞍かさにつゝ立河
なり一陣の此使源氏の大将検非違使五位
の尉源乃義経と名乗すれし此ころの
ら天臣大将やとゝ名しこのやうにこひ
（ワキヘ向）
おられてハ ツレヤル正 王侍平家のうとより
も言葉ゝうひすおハり無手一般こき
よせゝ渡うちきハにおりとゝ陸乃
敵を休みしに シテ同 源氏の方まもつく
兵五十騎斗中まもこをのやれ四高と名



兼〳〵志免うけ〳〵ろ〳〵石ふ（ツレヤル）
のうも〳〵もゑ七兵衛景清と名乗こなのやを
目甚銭ひ〳〵に（シテ）彼こそのやいその時に
志力うちわ〳〵力ち〳〵ろこ〳〵汀ふ汀近て
ふ（ツレ）景清退却こそのやう（シテ）名ち甲の
志ころをつっし〳〵（ツレ）注（ひけいえなる
も（シテ）弓をのうまろと（ツレ）弟（ひく〳〵（ツレ）せし
こえいやと（シテ）ひく〳〵力に（ツレ）肩（西手ヲ引ヒ
ねうう（西左ノ方ヘ）ちきつ〳〵（サシツケ）左右（くいつとう
のきこなるそを（面ヲ下ニテ正面ヲ向ニナル）ぬ（ヘトリ立
を（目付柱ノ方ヲ面ヨリ見出ス）汀こうちとせるく（ツレ）彼次伝能登
及の矢さきふ〳〵つ〳〵馬（ヘトリ立右）ろ（ツレ）に（ツレ）ろう

こ名まい（下トリ正ニテヒラキ）ふよい菊ろうまりぬいこ
ろのいまこそ（左ノ方下ヲ左右ト面ソムケ）ろ（ツレ）ろう招い沖（ツレ）陸い
陣（右ノ方ヘ）招ふ汀志ろの波の声ろ〳〵
砂の波雪風（ウシロヘ見）そ（ツレ）ろのまこし（キ心ニテ中ノ行下ニ居ル）〳〵そ
成ろう（正ニ右ニ）ふ〳〵ま成こそ海士人の俗
く〳〵花ねうろを名をなのりろ〳〵や
（シテ正）玉名を何こいふ波のそ〳〵やよ〳〵ほし
ねく〳〵や赤（ワキ）の名ろのまゆ〳〵ふ〳〵そ名乗
ねて〳〵ろ〳〵ろ（地正）実や言葉そ世
う〳〵ふ其名也う〳〵まをく〳〵の（シテ）もう〳〵を
かこる小名衣（地）比ルこい（シテ）春の朝
乃（ワキ）湖の波る曉なう〳〵い浪音の時に

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

ハ迷ハぬふまゝ（ヒラキ）ぬるそや生死の海山を
（サシ旦シ左ノ袖ニテヨセイ左ノ袖ニテサシ旦スヤフニシテワキノ方ヘ行ノ袖カヘシ左ノ向）
たゞかれやらてゆるハ鳥のうゝめしやこ
（左ヘ旦リシテ柱ニテ小旦リワキヘヒラキ）
こゝくふ執公の殿のうゝのふかきよに受
拘語申なるとく（正面ハズシテ地中ニテ床机ニカヽル図面アリ）ゑまぬものを
閻浮の故人にまゝしき年なきのゝる
乃夢路に通ひまゝ修羅道の有様あ
らはなり（サシ）ゑひそ出る昔の蓋月も
こゝよりさえ人里本の渚ハまゝなれや
源平互に矢先をそろへ再をくゝ弱を
なゝつゝうち入くゝ何しなゝよくつゝ（ワキヘ）
をひゝして責ゝふ（シテ付）その時何
とゝ志ゝりけん判官ゝを名所し波

にゆられて流まゝしに（地上）そのおしも
ハ難く堪まゝく遥ふ遠くなゝれ行を
（シテ付）うゝきにうをこゝまゝと弱を波間
ふをよゝせゝく敵船をく成しほゝに
（地上）敵ハ是をみしまりも船をよせ態まに
越ゝく既に何やうくみゝかひしに（シテ付）去
ともくまゝくをおもひ終にうをとり
直し本の渚にうち何ゝまゝハ（走）玉時兼
廣申やうに情しの所振旦や復旦まて
京時ゝ申しもあれまゝく社ゝへ維千令
をのへる所ゝなりとも所家ふハゝへまふ
為きゝと浪を流し申けれハ判官先

をきこしめし ワキヘ いやとよ弓を惜しむ
にあらず 名乗 義經源平に弓矢をとつて
私なし 然れども佳名はいまだ
半ならねば さるは此弓を敵にとられ
義經は小兵といはれんは無念の ワキヘ
次第なるべし よしそれゆへうたれんは
力なし 義經が運の極めと思ふべし
さらずは敵に渡さじとて波にひかるゝ
弓とりての名は末代にとゞめんやと語
給へは ワキヘ 兼房さて其外の人々も みな感
涙を流しけり 上シテ 智者はまどはず
勇者は懼れずの やたけ心の梓弓の

には取伝へじと惜しむは名のため惜しまぬ
は一命なれば 身を捨てゝこそ後記にも
佳名をとゞむへき弓筆の跡なるへけれ
シテ下 また修羅道の鬨の声 地上 矢さけびの
音震動せり けふの修羅の敵
はたそ 何能登守とや あら物々しや
手なみは知りぬ 思ひぞ出る 壇の浦の
其船軍今ははや 閻浮にかへる
いきしにの 海山一同に震動して 舟
よりは鬨のこゑ シテ 陸には波のたて
地 月にしらむは シテ 釼の光り 地 潮にう
つるは 甲の星の影 水やそら

行もさこその浪ぬれお会さ（一切前柏子ツ右ノ方ヘ前サシ）ちるこ母（アト下リ）

軍のきゝうき（ダンシモ一ヨリ）あつもとてほとゝきす（正面カヲシテ角ヨリキ東ノ方ヘ前ノ雲ノ立角（行角トリ左一ヨリツキ柱ヨリサシテ柱ヘ行）

の世の浪より吸ふ〳〵こすとゝん〳〵

もまなうもみえときの竜ときこえ〳〵（小廻リ正一ヒラキ袖カヘシ右ウケ）

うら風なりうをと高雲の海風なりうを

高松乃松風とそ成にける（ト袖ヲ）

初シテ委附

星ナカシ謡ヨリ　橋右（ヲヨシ左ノ手守ソ赤右ノ手持カ右ノキサケブタイヘ入ル）

●雲ちらり〳〵●塩竈ちかきうらもまつかせも

内ヘトリ正ヲ　右ノ足ヲセ左リノ足フミヒラキ正（直ヌ）

謡ナカラ橋ステ中ヘ行キ床机ニカル此床机ニカル処ヲフミ揃ヘ床机カト（アテルト体ノソレヌヤフニテタカフタムヤフニ床机ニカル是ヨリ床机ニカリ掛合初シテ入道ノ内リソハスキルトアシラ矢人心持是ニカキラズワキヘ向正（直ストキニテノヒラソハアレド床机ニカル処号面ニアリ

サテ痛ハシキ　ナサレヨトヲ言ナサニテ下ニ居

立正（直）レニ三足ヌカリ床机ニカヽリ腰カケテコシニテシタル袴ヌキ持ツテ直ス扇ハト謡床机ニカル処号面ニアリ

●げふまことこそと●痛りや●いてまほしい

サシ分ケ初心ナレバリソニテレヲケル手練ヲモリテノ上ハ左ヘ小シ向テ右ヘ行分ケ心ニテ目通リヘ左ノ手出ス左ノ方ヘ少シ向テ右ヘ行分ケ心ニテ目通リヘ出シ右ノ方ヘ少向テ右ノ手ヲ右ノ手目通リヘ出シ右ノ方ヘ少向テ右ノ手ニテ右ヲサシ分心

ムラザシ（通ノムラザシヨリ上ヘアゲ下ヘサゲテ指子フメ左足ハ初心ナリムラザシノ直ニテノヲサシテ指子フム

右ノ足右ノ方ヘフミ出シ左ノ下見直ニフミ出シ

正向クワキノ下ヲヒロケル右ノ方ヘ多クヒロケル左ヲケレハハナシ

●家笑ひが聞ゆるぞ●おゝ波のおかうらく

サシ出シ目付柱ノ方ヘ出ル

袖カヘシ左ヘ向テ袖カヘシ右ヘ向テ見処ヲシテ出シ右ノ手ヲ上ヘ直ニシテ柱ヘ引付ノ下ル様ニツハシテ袖振ニテ

袖モトシ左ヘトリ直ニシテ柱ヘ引ヲハノ行小廻リツキヘヒラキ

正ヒラキ此ヒラキ紫ヨリサニフタラズ心ニテツリ合イ何ノコナク直ヒノカリトヲ大キニヒラク指子調子ハツシテフム

●武士の八重垣ぬ入や●波ぢをそなる（ヨ）●さにく

目付柱ノ方ヘ出シテ柱ヘ行小廻リツキヘヒラキ

スラ〳〵トシテ柱ヘ行小廻リツキヘヒラキ

●ゐ枕ふの●ゐを捨てこそ浦紙ゐも

後シテ委附

早ヘ向少シヒラキノ下ヲヒラク心ノ内

右ノ方ハ多クヒロケル左ヲケレハハナシ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

二十七 八鴻

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

一町計舟をうかへ源氏ハ此汀にう
ち出給ふ其時乃御装束にハ赤地
乃錦の直垂ニ紫すそこの御着
背長あふミふんはり鞍笠につゝ立あか
り一院乃御使源氏の大将検非違
使五位乃尉源乃義経と名乗給
ひし御骨からあつはれ大将やと見えし
今乃やうに思ひ出られて候
〽其時
平家乃方よりも言葉戦ひ事終り
兵船一艘漕よせて波打際に
おりたつて陸乃敵を待かけしに
〽源氏乃方にもつゝく兵五十騎計
中にも三保乃谷乃四郎と名乗て真先
かけて見えし所に
〽平家乃方にも
悪七兵衛景清と名乗三保乃谷を
目かけ戦ひしに
〽彼三保の谷ハ其時に
太刀打おれて力なく少し汀ニ引退
れ
〽景清追かけ三保の谷か
きたる甲のしころをつかんて
〽うしろへ引は
三保の谷も
〽身を遁んと前へ引
互ニえいやと
〽ひく力に
鉢付乃板より引ちきつて左右へくわつと
とそ退きにける
〽是を御覧して判官
御馬を汀にうちよせ給へは佐藤次信
能登殿乃矢先にかゝつて馬上ゟとうと
落れは舟にハ菊王もうたれ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

八嶋

裝束之覺

大夫　朝倉　襟 浅黄　着附 熨斗目　扇子

フトシケ水衣 肩上ケ　腰帯 緞子　釣掉持

後　平太　襟 白花色　着附 厚板唐織　半切

法被　腰帯 紋付　太刀　扇子　黒缶

白鉢巻　梨子お鳥帽子

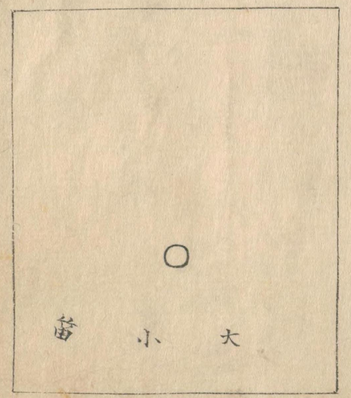
連男　ハナシ髪　襟 花色　着附 熨斗目　腰帯 紋付

水衣　釣掉持　扇子

●先々塩屋ニ内里佛ふ居るにてハト床机ニカヽル処ノ圖

●いてこれハト床机ニカヽリ謡フ処ノ圖

●忌まれこのを圖浮の故々ト床机ニカヽル処ノ圖

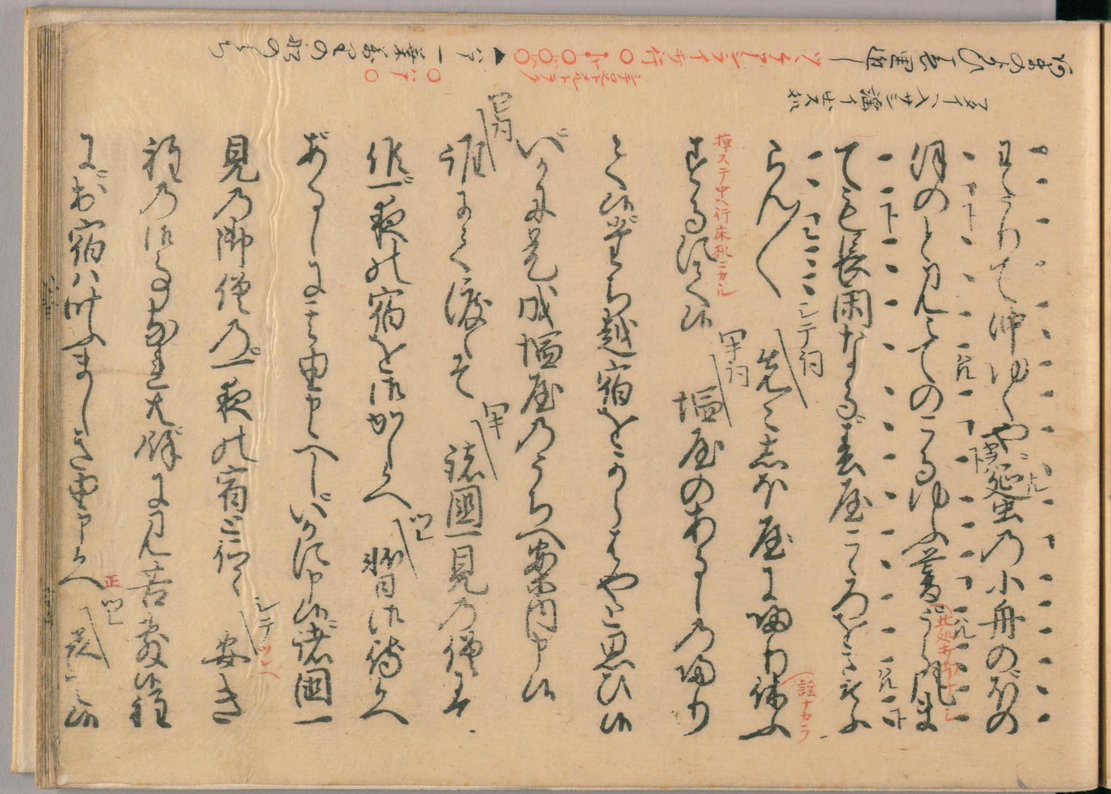


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

シテ舞附

●揉右ニカタケ肩コシニサシ一セイ不越シテニノ松ニテ留正面向ヘト謡●物ヅキツレ●月の出笠正●里ヂ〳〵ツレ●里ヂ〳〵盆切リ揉ヲロシ右ニサケ持内ヘ入リシテ柱サキニテトメ一ノ松ヨリ里ト謡●月の形ニツレ



御宿乃事をとりてくれ候ほうんかうと
ゆれぶけまりしきまり給ひ（ワキ）いやくまん
者あるハかるしかるとゆこれ見ハ都
方乃者ゆくべ浦ゆしめて一見ゆ事
よくゆが月乃若てくれ平ま一夜ニ重
て御ゆくへ（ワ）心ゆゆ唯とのうしとて
くれ様人ハ都乃人まくれ入ゆが月ゆ言
くくれ平ま一夜ニ重て給ひ（シテツレ向）如様
人ハ都乃ゆとくゆう（ワ）さんゆ（シテ内ヘトリ）実
痛りしきゆるゆゆさくハお宿をかりゆ
さん（ワカル）なよりも栖もあり乃屋ゆ
（シテ内）さくまま枕ニおりしめを（ワ上）志りしと
くれハ照もをと（シテ上）曇りも果ぬ事

乃夜の（上テ）おかろ月夜ましくおもふ
さあまの苫（立上月）（正三足手出）八鳴ま半てるまる松
乃苫の筵ゆいくとりしやう（上三月）（正面）さくく慰ミ
いうしゆ名乃ゆくむまのる半つと御
賢んをよふとうこ雲井ま論らさん（ワキ）様
人乃古里ゆも都ニさをハ為りや（ワキ）我
らもなハ心くなりく涙ましをひを
（正）（ワキ内）（謡様ルラキニチ下ケル）めゆまゆゆ何ニゆん似合
忍不申とそくれ古へ此不ハ涙平ゆ合
我乃ちまくこまてゆ通夜ゆつく
ゆすをくへ（シテ内）（ワキ）安さ間乃ゆうとつて
ゆ（立正床机ニカヘル）ゆへしいてまゆ此ハ元暦元年二月
十八日乃事成しに平家ハ海乃おりて

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

一町計の船をうへ源氏は此行ようら出すゆゑ大将軍の出立ようは赤地の錦の直垂に紫をとりこれ出る肖證ふしとり勅りさまつ門立あり

四上院の御使源氏の大将検非違使五位の尉源の義経とは名乗給ひ此こうしは天晴大将やとりんとしとの屋うは思ひ出し立て此時平家の御ことはもとくひすおりわ兵船一艘こさよをて浪うらさんにおわ立て陸の敵を待然に源氏の方にも浪く兵々十騎計中にもこおのやれ四ツ上名乗て

懸て見えしやうに平家の方にも恵七兵衛景清と名乗こおのやを同然戦ひしに

ぶ分うち打くかなくどうし深引退れ

景清追然こおのやう

半ける甲の志ころをつかむて

ハ見おの屋も

半とりひきそいやと

つきの板より引ちきつて左右へくつ

とうのさんをる兎を出し見て判官御馬と行ようらしきを浪へ

然れ兎の矢さきにかつて馬より下

よとうと落出ハ舟には菊王もうと

初シテ委附

後シテ委附

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

ワキ〈向少シワキ下ヲヒラク心ソノ内右ノ方ハ多クヒケル左ナケレバハジナシ

•永夜抄ぬ思ふ•あ海のやおきつ

正面ニテキ此ヒラキ業モヨサニフクラズ心ニテツリ合イ何ノコナク直ヒツカリト大キニラク拍子詞ナニツカズ一調子ハツシテフム

•武士の八嶋ぬ入や•満ちそそる〕•ここに〳〵

正向クワキノ下ヲヒロケル右ノ方ハ多クヒロケル左ナケレバハジナシ

袖モトヨリ左〈トリ首ニシテ柱ヘ気ヲノバメ行小出リワキ〈ヒラキ

袖ニテヨセノワキノカ〈行袖カニ左ノ川向ノワキヲシカト見ヨサヨセレノアト自然ニ手ノモル様ニツカテ位善テシ

サヨセシ目付柱ノ方〈出左ノ目付柱ノ方〈向キヌラ〳〵トシテ柱ニ行小出リワキ〈ヒラキ

み祝ひの•男を待てこそ後祝ひも

あふの海のようま春附左近左仕舞附ニ有引合セ可見

替業

詰切り地頭ノ上〈行下ニ安座左ノ足ヲ右ノ手下ヲ左ノ手上ヘカサネ面方ノ手ニテカニ正向キ下ニ居ルシテ下ニ居ルトワキ

詰座ト詰カケル

•詰座ぬ海士もる身ぞ•おきつ

ツレ〈面手向

面正〈直ス

•妻てふ子ゆゑの身を•何猿人を放の矢と

ツレ〈面手向

面下〈トリ安座ノヒザ居直リ左ノヒザ立右ノヒザツキワキ〈向ク

•さゝば思ふ面をかしゝさゝば•思ひそて寒•何ぬ

正

内〈トリ立

ワキ〈向キ只ハト下ニ居ル

中ノ上

のさ海八嶋ぬ生そる玉の苔の衣い薄

正

•や•さて磨き•猿人の古ぬも•ふ〳〵

ワキ〈

ふそのさふ〳〵る

面下〈トリ

右ニテレヨリ

ヒラリ右ノ方ノ正

ニト強切リ内〈トリ正面〈直シ立ニ三足下リ来机ニカヽルアト一通リノ業同断

ワキ〈

•おきぬ海士の串漁る〳〵•いてそ浜

両手前〈出シテ合セ

•もろ住吉の松ずう〳〵ちぎりて左〕•ありそのさふ〳〵る

面方〈川ワケ

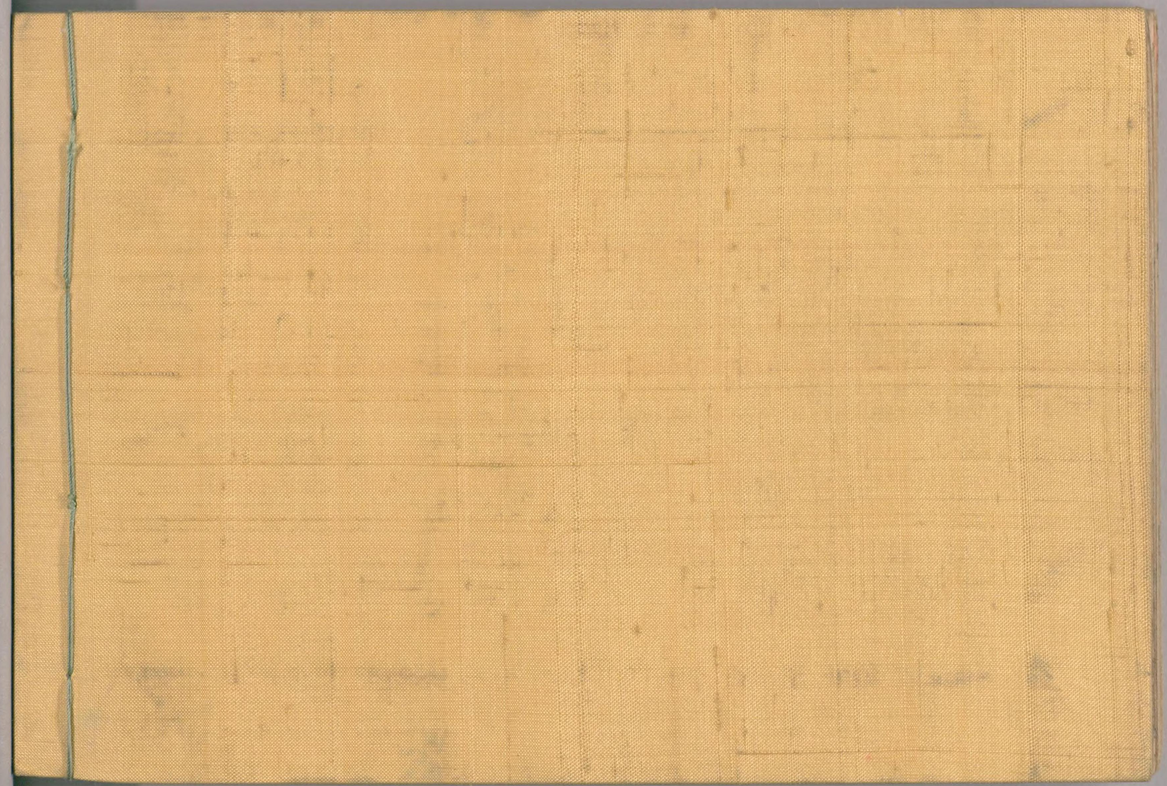
左ノ方ヨリ右ノ方〈ヨヨザシノ見込アト同断

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用